

翻刻資料Ⅲ

簿冊「昭和二十一年度 審査合格者作文
京都人文学園」

須 永 哲 思*

【凡例】

資料の翻刻に際しては、以下のように行った。

- ・原則として、旧字体は新字体に改めた。
- ・歴史的仮名遣いについては、原文のままとした。
- ・原稿用紙に縦書きで書かれている作文は、横書きに改めた。
- ・改行は原文に従って行い、同じ段落内で原稿用紙のマス目が1マス空いる場合には詰めることとした。
- ・句点が落ちている場合には、適宜補った。
- ・明らかな誤字・誤記については、〔 〕に正しい字を記したルビを付した。
- ・明らかな脱字については、本文中に〔 〕で必要な字を補った。

Ⅲ-1：吉田九洲穂「人文学園に入学を希望する理由」

私の過去

私は大東亜戦酣の昭和十八年四月、多くの望みを抱いて京都高専に機械科生として入学した。然し私は間もなくその学校生活に厭悪を感じ始めた。それは教育に於ける現実主義や派閥主義に対する私の幼き批判であったかも知れない。然し私は、これを己が我執なりと観じ、只管その生活に没入すべく努めたのであった。

病を得て、二学期間休学してよりは、私の異常はさゝやか乍ら人生観に向けられた。けれども私の接し得た総ての教育が、当時にあつては全く国家主義的なものであった為、必然の結果として私は、祖国の急を憂へ、物狂しいばかりの念願で学徒荒鷲を志願したのであった。

*すなが さとし 京都大学人文科学研究所

憂国の熱情に燃えた私を迎へたものは、一切の批判を壓殺した、形容すべからざる内容の愛国青年将校養成機関であった。それはいまにして惟へば、教育に於ける権威主義や現実主義や派閥主義やの、即ち封建的教育の典型であったのだ。

昭和二十年八月、軍国日本の夢破れ恐怖と混乱と飢餓と我利の渦中に私は、私の受けたあまりにも大きな精神的打撃に茫然自失してゐた。

私の現在

私が生まれてより受け来つた殆んど総ての教育が悉く誤つたものである、と私は初めて教へられた。国家主義思想に凝固まつてゐた私には、此の教は如何に驚くべきものであつたか。疑を抱きつゝ私は変貌する日本をみつめた。そして次第にうちひしがれていった。遂には限りない敗北感には私に浸透してゐた悪夢を発散させ、前途に光明を見出す方向に転じて行つたのである。

敗戦日本は今その民主主義的革命的苦難と闘つてゐる。さうだ、私も又生まれ変わらなければならぬ。謙虚な気持ちで、過去のあらゆる確執を去つて、新しき第一歩を踏み出したい。私は静かに京都高専を顧みた。生れ変わる日本。生れ変わる私。

教育の第一目的たる「人格の形成」を想ふ時、職業教育を本旨とする京都高専はいさぎよく去るべきであると私は断じた。

人文学園

折しも人文学園生る。その標榜するところは、過去の日本教育の弊より脱却し「人類の福祉のために尽くすべき世界公民の扶育を念願とする人文主義の精神に依る教育」を行ふに在る。それは私の希求するところを充たしてくれるやうに思へる。否、私共躬らが、すぐれた師と、こよなき環境の下に、私どもの希望を打ち樹て、ゆきべきなのだ。

私は、私の生きる道を人文学園に見出したい。

昭和二十一年五月三日

Ⅲ-2：無記名「人文学園ニ入学ヲ希望スル理由」

我等は今や愛すべき祖国を失ひし流浪の民である事を痛感する。且ては祖国日本は世界の列強と伍し堂々と歩調を合はせて進んでいた。昔の日本は今わ既に過去の夢と成り果ててしまった。又義を以て誇つた道義の国日本は日本人の道義全く地に底下して我等の據る日本精神即ち同胞愛や団結心や奥ゆかしい謙讓の心等は最早その所在をも晦ましてしまった。しかしこの事を以て我等はいたづらに悲しみなげいてゐる時でわぬ。我等は如何なる悲しみを乗り越へて新しき道を開いて行かなくてはならない。我々青少年に課せられた重大な祖国再建の任務を痛感して日夜勉強に勉み民主主義日本を再建して再び昔の如き道義の国文化の国として世界に雄飛しなくてはならぬ。その為にはわ我々わ今より一層もっとももっと勉強しなくてはならない。し

かし今日の官立或は私立専門学校は今だに軍国主義色が濃厚である。とうてい真の民主主義教育は行はれ難いのである。しかし今回幸にも連合国最高司令部より軍国主義教育者の追放令が発せられた。がしかし全部軍国主義者が追放せられるかどうかはわからない。中にわ軍国主義者が民主主義者の如く世間を「ごまかして」教育を行っているのが今の現状であると考へます。この状態を思ひ又一方官立学校の教育方法或は学則等より見て、我々青少年が今より真の民主日本を建設しようとして学ぶ学園にしては、あまりに旧態依然として軍国主義色が濃厚に見るのであります。私はこの様な軍国主義的な学園で学ぶよりは、と考へて何所も受験せずに独学で実力本位に勉強して居たのであります。その折に友人が当校の規則書をみせてくれたのです。私はその各項^[項]を読み、自分の迷^[迷]めていた軍国主義色に染らずに民主日本と共に出発したる真に民主教育の行はれる理想の学園なりと確信し志願致しました。又規則書の一部に「私立学校なるが故に上級学校への級^[級]学の道が云々」と有るは、我等の心に掛ける所でありません。我々は学力を養生^[成]するのであって履歴書を立派にする為に勉強するものではありません。履歴書が立派で祖国は再建されません。ですから先生様にわ此の様な枝葉の事に気をつかわずに我々を教へ道^[導]びいて下さる事希望致します。又私は私立学園なるが故に民主教育は可能なりと思ふのであります。官立学校に於ては学校の校長諸氏は文部省或は県の指令^[令]と云ひ県の指令以外にわ一事業たりとも行ひ得ないのであります。生徒や其の他の父兄の希望等も官立なるが故に却下されて採用されずにあたら良い案も実行不可能に成るのであります。その他色々私立学園の方が質的にも向上発達の前^[前]途は明る〔い〕のであります。私はこれ等の問題を真^[真]険に考へて今回入学を志願する動機と成ったのであります。以上

Ⅲ-3：中村敦子「人文学園に入学を希望する理由」

軍国主義的な教育界から出た私は今水に溺れる者の如く新しい時代の理想的な教育の助けを待ちわびてゐるのであります。

暗澹たる眼前に一隻の舟の如きものは此の度新村先生に依って創立された人文学園だと信じて居ります。

東京にあります自由学園も真の現代の教育として望ましいのでありますが食糧の関係交通の混雑に依って許されず今しばらく社会の情勢の落ち着くまで京都人は京都の地に於て学校を望むべきだと思ひます。

学園入学に依って私は自己を捨て人のために尽し得る人又人間性の円満に発達した近代人になりたいと思ひます。そのために科学的理論的な思考行動を持つ人間として又たしなみある女として道徳的な一般社会の教養芸術的な心得を得る事によって調和のとれた人間として自己の人格も形造られ近代人として私も民主主義的な大道を歩む事が出来るのではないかと思ひます。

私は今暗澹たる立場より救ひ出され真に人生に於て生甲斐を觀じ得る仕事も出来るのではな

いでせうか。

学園の教育によって得た人格知識によって天に在す父なる神のために又世界人類のために自己を捧げる事が出来たならどんなに生甲斐を感じる事でせう。

今心の中にあふれる向学心如何とも抑圧することが出来ません。近代人として学びすべてのために尽くしたいと望んで居ります。

望むべきは真に人文学園しかない信じ心より希望致しました。

Ⅲ-4：西部登美子「入学の理由」

戦争が終って再び平和が訪れ私共夫人に取っては参政権と云ふ思ひも寄らなかつた栄誉が贈られました。同時にひしひしと責任が感じられます。果たして私にそれだけの価値があるでせうか。女学校時代に^{〔講〕}満足な公民教育すら受け得なかつた私にはその尊さよりも煩はしさをさへ感じました。戦争の為に学徒の本分たる学問を捨て、工場に入り思考する余裕さへも与えられなかつた私は男女同権婦人解放の声を聞く度に一人世の中から取り残されて行く様な寂しさを感じます。

卒業後女子挺身隊の一員として向上に働いて居りましたが非科学的な点をあきたらず思つて居た時丁度文部省科学研究補助技術員養成所と言ふのが大阪では阪大に開設されました。受験の結果工学部冶金学科に入り僅か六ヶ月間の短期間ではありましたが大学生と同様の待遇で先生方の講義を聞く事が出来ました。女学校時代軍国主義の抑圧的な教育方針に馴れて居た私は生徒を信じ愛し且つ敬つて下さる先生方の態度に全く驚きました。私は心から先生を尊敬し自由に面白くしかも真剣に勉強する事を覚えました。終戦と共に家庭に帰り複雑な家事一切を母の代わりに処理して居りますので忙しい時には日に一頁すら読めない事もありますが今尚向学心に燃えて居ります。それと言ふのも大学での互ひに尊重し合ふ自由な環境を忘れ得ないからであります。厳格な人間は厳格な環境に育ち放縦な人間は放縦な環境に育つ。新しい意気と豊かな科目真に自由で、なつかしい阪大と一脈相通ずる様な学園。その学園から本当に立派な人間が出れば最早「…令」とか「特典」とか言ふ様な配色的な物を問題にする必要はない。

試験制度のない事。生徒が主動的な立場にある事等々女学校教育の延長である様な女専教育に不^{〔講〕}満をもつてゐた私にとって学園の諸制度は実に喜ばしいもので私が入学を思ひ立ちましたのも之等の点にあります。今日婦人の地位が高められました。婦人の一人としての責任感と学問に対する不思議な愛着と、更に大なる原因としては、最近私は精神的に非常に打撃を受けた事です。そこでつくづく人生と言ふもの人間と云ふものについて考へさせられました。哲学にすべてを打込む事によって苦悩を超越する事が出来たらと思ひ、その段階として学園を選びました。過去が一番楽しい思ひ出である阪大の環境に類似しより以上に徹底して居る学園の生活は必ず私の心を慰め励まして呉れるであらうと信じて居ります。父母の慈愛深い理解により学

間に全力なを集中することを許して呉れた事も又私の入学を促した大きな力である事を書き忘れる事は出来ません。 「終」